

あ と が き

『各小学校で就学時健診が行われるころになると、5歳児クラスでは子ども達も親も教師も来年4月からの小学校生活に向けて様々な思いを抱く。特に子ども達にとって小学校は憧れの場であり、もうすぐ一年生という思いが大きな励みとなるようである。また、教師は小学校へ思いをよせている子どもの心をとらえ、幼稚園とは異なる教科の授業が中心となる小学校への生活に向けて、今幼稚園での生活はどうあるべきか、そして幼稚園と小学校の生活をどうつなげていくかということをしっかり考えていくことが必要となってくる。しかし現実の問題として幼稚園の教師は小学校教育を、小学校の教師は幼稚園教育を互いに正しく理解し合っていないために、その間にはどうしてもギャップがあるように思えてならない。

~~~~~実践 略~~~~~

小学校の教科（生活）の授業に参加するという事でどちらかというと幼稚園は受け身になりやすかった。そのため、5歳児のその時の興味関心や生活を無理に変えることなく計画された小学校の授業の中に参加するにはどうしたらよいか常に悩まされた。しかし、この活動を通して子ども達は一年生の先生や友達と顔見知りになれ、ほとんど不安なく小学校への入学を迎えられるだろうし、園ではできない経験もできた。また教師も、一年担任との話し合いを重ねていくことで、互いの教育について今まで理解できなかった部分を理解しようと努力し合えるようになったのではないと思う。そして、小学校教育を理解し、発達を見通すことで幼児期にふさわしい生活というものがよりはっきりしてくるのではないかと感じた。子どもの生活にとって幼稚園修了、小学校入学はひとつの節ではあるがギャップであってはならないと思う。そのためにも、幼稚園、小学校の教員同士がもっと密に連携し、理解し合うことが必要であると思う』

この文章は、小学校で「生活科」が始まった平成元年度に附属小学校の一年生と交流活動を行った実践を私がまとめたものの抜粋です。25年以上も前から幼小連携の必要性を感じながらも残念ながらそれほど状況は変わっていません。それは、例えば小学校においては総合的な学習の時間や全国学力調査に関連した課題など、また、幼児期の教育においては幼児の主体性と教師の役割についてや協同性に関連した課題など、幼少それぞれに先に取り組みざるを得ない課題があり、幼少連携は大事だという思いはありながらも積極的に取り組んでこなかった結果だと思えます。

平成27年度1月に文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センターにおいて「スタートカリキュラム スタートセット」が作成され、全国に配布されました。

今、幼少連携・接続の研究は幼稚園教育及び小学校教育にとって喫緊の課題のひとつであると考えております。まだ、始まったばかりですが、本研究が石川県内の幼児期の教育及び小学校教育に役立てていただけるよう更に研究を進めてまいります。

最後になりましたが、本研究のためのアンケート回答にご協力いただきました幼稚園・認定子ども園・保育所（園）・小学校の皆様、また、ご指導いただいた多くの先生方に厚く御礼申し上げます。今後の研究の更なるご批判ご指導をお願い申し上げます。

平成27年6月

副園長 上田 ますみ

## 研究同人

|     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 山 下 | 浩   | 安 田 | かおる |
| 上 田 | ますみ | 出 嶋 | 志津子 |
| 西 多 | 由貴江 | 橋 田 | 梨 沙 |
| 天 満 | 弥 生 | 北 川 | 真理恵 |
| 林   | 博 之 | 寺 嶋 | 珠 未 |
| 草 場 | 勇 介 | 小 路 | 優 子 |
| 高 城 | 香 織 | 村 野 | 智 康 |
| 木 林 | 晴 美 |     |     |

発行日 2015年6月12日  
発 行 金沢大学教育学部附属幼稚園  
金沢市平和町1-1-15  
076-226-2171  
製 本 株式会社ハクイ印刷